

榎谷議員 今回より演壇の方でやっておりました一般質問がこちらの方に設けられましたので、一般質問をこちらの方でさせていただきたいと思っております。通告しておりました3件について、ご質問をいたします。この件につきましては、2003年12月議会に南海地震のことについて、津波地震について、ここにやっております。また、2004年6月議会にも八坂橋のことについて質問しております。そして、また、2006年3月議会におきましても土砂災害とか地滑りのことで質問をしております。それでは、通告しておりました3件について質問をさせていただきます。南海、東南海地震備えは万全か。巨大地震3つ同時に、明日かもしれない。いたずらに不安をあおるつもりはありませんが、間違いなくやってくる大地震。南海地震よりも大きいものが来るであろうと予想していますが、南海、東南海地震に向け、備えは十分な体制を取らなければならないと、国、県、各自治体も危機管理意識を募らせています。本町においては、残念ながらまだ十分であるとは言い切れません。町長も今回の選挙の第一公約に掲げております、東海、東南海、南海地震に対応できるような津波避難場所を早急に設置すると公約しております。そこで、南海、東南海地震、同時多発地震が懸念される中、町民の皆さんの命と財産を守るべく対策は、何を置いても優先すべき課題だと思っております。牟岐町の被害を最小限に食い止めるには、今、何をすべきか、今年3月11日の巨大地震、岩手県宮古田老地区の日本一の防潮堤が無残にも破壊されました。そういった点では、西の防潮堤も何の役にも立たないのではないかと近隣の方々が不安を募らせています。防潮堤の嵩上げを今後検討していくのか、さらに、東の防潮堤は、また、沖の堤防はどうするのか、今回の未曾有の大地震を教訓に、今、足元から地震、津波対策の見直しが必要ではないかと思っております。国が成すべきこと、県が成すべきこと、町が成すべきこと、海部郡では千五百人の死者を想定していますが、牟岐町は町民の命を守る観点から、ハード面、ソフト面において万全を尽くすべきと思っておりますが、町長の見解をお伺いいたします。2つ目に避難場所及び防災マップの検討見直しについてお伺いいたします。今回の岩手県宮古市の全国最大規模の津波防潮堤が未曾有の大津波には成すすべもなく多数の死者、行方不明者が出ました。そこで防災の観点より各町内の避難場所、コミュニティの安全性においてお伺いいたします。まず各町内の避難場所、コミュニティは避難場所として、また、コミュニティとして耐震化も含めて安全と確定できるものは、どことどこなのか、安全でない所は今後どう対処すべきか、対処できない所は、各地域への連絡は、どうするのか、防災マップの見直し、町民への配布などが必要ではないかと思われまます。具体的に2点提案いたしますと、東の東のコミュニティですが、川沿

いに位置し、天井も落ちてきている状態です。早急に調査し対処する必要があると思います。また、大谷地区の避難道路の急傾斜地の地割れですが、過去幾度も亀裂等の補修工事を行い現在も工事完了の見通しであります。道路が遮断すれば、避難場所に行けません。急傾斜地に設けた避難道路だけに地震に備え本当に避難道路として大丈夫なのか、今一度確認いたします。さらに町が防災マップに記載配布してあります。避難場所、また、コミュニティーは、海拔何mなのか。では、町はきたる南海、東南海を踏まえ海拔何mまでは安全と定めているのか重複しますが、町内の津波防潮堤は、八坂橋は、また、その他の町内の橋は安全なのか、老朽化や耐震化が不十分ならば、避難場所の見直しや避難経路の見直し、危険箇所調査も行う必要があるのではないかと思います。南海地震より大きい地震が来ると予想されている中、先日の新聞報道でもマグニチュード9.0も予想されている中、今一度、一から足元から検討する時期ではないかと思いますが、町長の今後の防災についての取り組みをお聞かせください。次に町民の防災意識啓発をどう進めていくのか、一番重要なのは、自分の命は自分で守ってもらう。そのための啓発活動を今後どう取り組んで行くのか、地域ごとに津波が襲った場合の避難経路をきめ細かく演習することや万が一に備えて住民に周知しておく、そのための地域特性を踏まえた防災体制づくり、自主防災組織の強化や連携、防災支援、救助など応急活動の推進、医療機関との連携、さらに備蓄の毛布や非常時の飲料水や食料など、どこどこに備蓄しておくのがベストなのか、地震後の対策は、どう進めていくのかも併せてお聞きいたします。以上、3点について答弁をお願いいたします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 只今の榎谷議員のご質問にお答えいたします。先の東日本大震災における大津波は、国、県、市町村がこれまでに作成いたしました地域防災計画の大きな見直しが必要であることが判りました。現在、国等の機関で鋭意、想定津波と言いますか、震源モデルの見直しを行っているところでございます。そして、国におきましては、平成24年度中に防災基本計画の見直しを行うと聞いております。従いまして、町における防災計画の見直しは、平成24年度以降になると思われませんが、今回の東日本大震災における大津波の被災状況と南海、東南海、東海の3連動地震発生確率が高まっておりますことから、できることから地震津波対策に着手いたしたいと考えております。ただ、人工構造物でございます堤防でございますとか、先程議員の方からおっしゃいました橋、

或いは、コミュニティー施設の整備などにつきましては、経済的、財政的、或いは、構造的に限界もございますので、幾ら大きな津波に対してもすべきことは、なかなかそれに対応するということは非常に難しいということもございますので、まずは津波が来たら逃げていただくということで、避難所の設置を早急にやってまいりたいと考えております。それで、これまでに既に2回、自主防災組織代表者や自治会長にお集まりいただき、各地区で避難所の選定を現在、今、行っているところでございます。当然、避難所との設置におきましては、山林等の所有者の方の同意も必要となってまいりますので、住民の皆様方のこれからのご協力をお願いいたしたいと思っております。改めて町の方からも住民の方をお願いに伺いますけれども議員の皆様方におかれましてもご協力のほどよろしくをお願いいたします。次に住民の方への防災意識の向上と啓発についてでございますが、牟岐町はそう広い町でもございませんけれども、津波の発災時の危険性につきましては、地区ごとに大きな差があると考えております。従いまして、防災研修、啓発の頻度や内容については、各地域ごとに差が出てくると考えております。従いまして、定期的な研修とか訓練は、各自主防災組織、或いは、自治会を中心に進めていっていただきたいと考えております。ただ、教材とか情報は皆様方で同じものを共有し、危機意識も共有して、また、定期的な自主防災組織の代表者、自治会の代表者にお集まりいただいて、危機意識を共有してもらいたいと考えております。いずれに対しましても、町といたしましては、全ての地区の活動状況を把握する必要がございますので、地区ごとの研修会の開催でございますとか訓練に参加いたしまして、連携して対応してまいりたいと考えております。それから、最後に非常時の飲料水、或いは、食料確保についてでございますけれども、牟岐町は幸か不幸か中山間地域が多くございまして、まだ調査をしておりませんが、非常時の米は津波に安全な農家の方がある程度確保していただけると考えております。従いまして、大津波の時に必要となりますのは、これも断言できないのでございますけれども、1日分ぐらいの食糧と数日間の水だと考えております。そして、水は現在牟岐中学校敷地内に耐震性貯水槽を設置しており、5千人が4日ほど生活できる量を確保いたしております。いずれに対しても詳細については、先に述べました地域防災計画の見直しの中で具体的にご相談いたしながらまとめてまいりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

枅富議長 大森総務課長。

大森総務課長 町長の答弁の補足と言いますか、具体的な部分についてお答えしたいと思います。現在の津波シミュレーションにつきましては、南海、東南海の2連動によるものです。国、県へ早急に南海、東南海、東海の3連動による津波シミュレーションの作成を要望してまいりたいと思っております。庁舎内のことにつきましては、課を縦断して、と言いますか、越えて、それぞれの問題点に対処していくために津波対策部会の立ち上げを考えております。それと避難場所、防災マップの検討見直しの点でございますが、津波の一番の対策につきましては、直ぐに高い所へ逃げるということにつきまします。今の避難場所についての見直しにつきましては、現在、自主防災組織、町内会へ依頼しておりますので、地域での議論に職員も参加させていただき、地域ごとの問題点や改善点につきましては、細やかな取り組みを支援していきたいと思っております。津波避難マップに記載している箇所では言いますと、津波浸水区域外の高台、避難場所や昭和56年以降の新耐震の建築物、高台等は36箇所、それから牟岐中学校、海部老人ホーム等は、今のところ安全だと思われませんが、浸水区域内には牟岐小学校、海の総合文化センター、内妻のコミュニティセンター、東部コミュニティセンター、同倫のコミュニティセンター、西浦コミュニティセンター、浜の家等がございます。新しい建物につきましては、耐震性もありまして、現在のシミュレーション上は問題ないと思われませんが、絶対ということはありません。避難する側につきましては、より安全で高い場所への避難を考えていただきたいと思っております。また、避難場所となっている建物については、再度調査をいたしまして、避難場所として今後指定できるのか、地域の方と検討していきたいと思っております。その中で自主防災組織、町内会等々、連携いたしまして、避難広場から更に高い高台への避難経路の確保など地域と一緒に取り組んでいきたいと思っております。今現在、自主防災組織、町内会で検討をお願いしております避難場所の見直しを考慮いたしまして、国、県のシミュレーションにより新しい避難マップ作成のあたりには、避難場所等の海拔の表記を入れていきたいと思っております。岩手県宮古市田老地区の日本一と言われました防潮堤なのですが、全く機能しなかったように西の浜の堤防につきましても津波を止めるというのではなく、避難する時間を1分でも1秒でも稼ぐものと理解していただきたいと思っております。田老地区のように防潮堤を信頼するあまり避難せずに亡くなった方が多数いたそうでございます。牟岐町ではそういったことのないように啓発を行っていきたいと思っております。大谷地区の急傾斜地区の崩れの方でございますが、現在徳島県によりまして工事を行っております。内容につきましては、工事延長25m、法面の崩壊対策でアンカーを打ちまして、法枠で斜面を抑え

る工法となっております。アンカーは平均7mで26本の予定、その後、法枠で約47㎡を抑える工事で、亀裂等の対策工事となっております。橋梁につきましては、現在、長寿命化修繕計画を策定予定となっております。必要な箇所については、今後対策を講じていくこととなっております。それと、住民の防災意識の啓発でございますが、基本的には、先程町長が申しましたように自分の命につきましては自分で守るということを徹底してまいりたいと思っております。備蓄倉庫の建築や非常食、飲料水の確保も検討していきたいのですが、あくまで基本につきましては、自助を考えております。非常食などの防災グッズの準備をお願いしたいと思っております。大津波警報等が発令されて、町の方がサイレンを鳴らしまして避難を呼びかける訳でございますが、地震などによりまして、防災行政無線が壊れる場合も考えられます。役場からの避難指示を待たずに直ぐに逃げる。今回の東日本大震災でも避難マップに自分の家が浸水区域外だということで逃げずに多数亡くなっておると聞いております。直ぐに高いところへ逃げるということを基本とした防災意識の啓発を進めてまいります。また、本町では自主防災組織の組織率は70%ほどでございます。全ての自治会において自主防災組織の組織率を100%にするため、未組織の組織化をお願いしていきたいと思っております。それから、引き続き木造住宅の耐震診断、耐震改修を進めてまいります。この6月県議会で簡易耐震リフォームに対する補助も審議しておりますので、詳細が分かりましたら広報などでお知らせをしていきたいと思っております。今後耐震改修に係る個人負担分がネックになって耐震改修が進んでおりませんので、町補助金の増額も含めて検討していきたいと思っております。以上でございます。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再問したいと思います。先程、具体的に東の東のコミュニティのことについて具体的に提案いたしましたけれども、東の東のコミュニティの具体的な答弁をもう少しお願いしたいと思います。

枅富議長 大森総務課長。

大森総務課長 東の東のコミュニティに限らず、古いコミュニティセンター、実はその当時ですが、東の東、内妻、浸水区域ではございませんが、西又とか、そういった時分

に建てられたコミュニティセンターにつきましては、雨漏りとか、かなり老朽化が進んでおります。そういったことにつきましては、できるだけ調査をいたしまして、修繕等検討していきたいと思っております。実際、東の東のコミュニティセンターでございますが、川筋でもありますし、これからの避難場所については、再度地区の方と検討していきたいと思っております。その裏に避難所と言うか、避難通路ですね、急傾斜のところ階段というような格好で狭い部分がございますが、それもかなり高齢者の方につきましては、避難しにくい道路なっております。そういったことも含めまして、地区の方と相談をして、これから対処していきたいと思っております。以上でございます。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 東の東のコミュニティについては、地域の方で土地を提供しても良いというお話も出ておりますので、早急に明日からでも大森総務課長がおっしゃったように川沿いでもありますので、補修という段階ではなくて、全面的に避難場所としてコミュニティを考えるとということで、早急に調査し、やっていただきたいと思います。それと、もう1点具体的に示した大谷地域の避難道路ですけれども、今、ちょうど工事中であれば、本当に今まで地震がない時であれだけ亀裂が何回も起こっておりますので、本当に地震があった時に大丈夫なのか、専門家の方に確認を取っていただきたいと思います。まだ、今日はしておりませんが、後で一山さんから質問がありますので、学校の耐震のことについては触れませんでしたけれども、それと、海拔何mかというのは、詳細が出来ていると思うのですが、やはり自分が住んでいるところの海拔が、いったい何mになるのかということも合わせて聞きたいと思っておりますので、もし町の方が来られたら、家は何mになるかということ、そういうことを教えてあげるといことも今後できるかということと、それと、もう1つは、自主防災、これの強化を進めていただきたい。以上再再問。

枅富議長 寒葉産業建設課長。

寒葉産業建設課長 榎谷議員さんの再問の大谷地区の法面工事につきましての地震体制、安全かどうかのご質問でございます。現在、総務課長の方から先程ご答弁ございましたけれども、法面に亀裂が入っているということが見つかりまして、ボーリングをい

たしまして、それに対応する法面の地滑りを止めるという工法で、現在、徳島県の方で工事を行っております。これに対しまして、震度幾らで持つのかということにつきましては、現在、県の方からお聞きしておりませんが、必要最小限に上に避難路がある。下にはまた住んでいる家屋があるということございまして、最低でも住民避難路として家屋に被害を与えないような工法ということでアンカーを打ちまして、法面に対策をするということをお聞きしておりますので、これにつきましては、県の方を信頼して工事をお願いしているところでございます。それから、先ほど標高、はっきりとするというようなことですが、それについては、総務課の方としても一応記載をするというような方向でいくということをお聞きしておりますので、これで答弁とさせていただきます。

榎谷議員 これをもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。